国語

小学６年

SAMPLE

この本の使い方と特色

この本は、小学校五年生までに学んだことがらと、六年生で習うことがらへの橋わたしになることがらを、短い期間でむりなく、そうごう的に学習できるように作られたものです。

■ **全体の構成**　物語・随筆（ずいひつ）・論説文（ろんせつぶん）・説明文・詩の読解問題と漢字・語句のことばの問題とで構成されています。

■ **単元の構成**　一つの単元は、見開き完結。読解問題は、詩をのぞいて、一単元で一素材を学習するようになっています。漢字・語句の単元では、部首、送りがな、かなづかい、対義語、慣用句、ことわざなども出題しています。

目　次

1 物語(1) …… *2*
2 物語(2) …… *4*
3 随筆(1) …… *6*
4 随筆(2) …… *8*
5 論説文(1) …… *10*
6 論説文(2) …… *12*
7 説明文 …… *14*
8 詩(1) …… *16*
9 詩(2) …… *18*
10 漢字 …… *20*
11 語句 …… *22*

1 物語(1)

学習日 /

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

15 10 5

上げた。

40 35 30 25 20

SAMPLE

〈最上一平「なまず」より〉

（注）ウキ＝水面に浮かせて、魚の食いこみを知らせる目印。
アタリ＝魚がエサに食いついた時、サオ先やウキが動くこと。
タモ網＝木や針金を曲げて網を張った小さなすくい網。

□(1) ――線①「だめだ、だめだ。今日は全然だめ」とありますが、元一は、魚が今日つれないのはなぜだと考えていますか。「今日は～から。」という形で、二十五字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

今日は
から。

□(2) ――線②「フウーと息をはきだした」は、だれのどういう様子を表していますか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア　緊張がゆるんだ直也の様子。
イ　緊張がゆるんだ元一の様子。
ウ　気合いを入れ直した直也の様子。
エ　気合いを入れ直した元一の様子。

□(3) ――線③「キューンと胸がしめつけられる。緊張する。ドクドク心臓がなる」とありますが、このときの気持ちを「緊張と□」と表した場合、□に入る最もふさわしいことばを本文中から漢字二字で書きぬいて答えなさい。

□(4) 本文中にえがかれている元一についての説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　直也が大物をつり上げられたのは自分のおかげだと考えている。
イ　直也が自分よりも大きな魚をつったことで、気分を害している。
ウ　直也が大物をつり上げたことを、自分のことのように喜んでいる。
エ　直也が魚をつり上げただけで大喜びするのを、不思議に感じている。

□(5) 本文の表現上の特色の説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　印象的なたとえを適所に用いることで、直也と元一の周囲に広がる自然の風景を美しく表現している。
イ　様子の感じをそれらしく表すことば（擬態語（ぎたいご））や、短い文を多用することで、気持ちや場面をいきいきと表現している。
ウ　具体的に数値を示し、くわしく説明することで、直也たちと魚との戦いの様子を客観的に表現している。
エ　省略を用いたり、ことばの順序を逆にしたりすることで、直也と元一とのやりとりを味わい深く表現している。

SAMPLE

2 物語(2)

学習日 /

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

SAMPLE

〈今江祥智「猫の足あと」より〉

□(1) ――線①「保は胸がどぎまぎした」は、保のどんな気持ちを表していますか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 心がうき立ち、はずむ気持ち。
イ とまどい、うろたえる気持ち。
ウ きまり悪く、うしろめたい気持ち。
エ うれしい半面、照れくさい気持ち。

□(2) ――線②「先生の話が、とちゅうからまた保の耳に飛びこんできた」からは、保が先生の話を聞いていなかったことがわかりますが、話を聞いていなかった保の状態を表すのにふさわしいことばを、ここよりあとの本文中から十三字で書きぬいて答えなさい。

□

□(3) ――線③「ツンとして」は、転校生のどういう印象を表していますか。「という印象」に続く形で、本文中から六字で書きぬいて答えなさい。

という印象

□(4) ※ に入る最もふさわしいことばを、本文中から漢字二字で書きぬいて答えなさい。

□

□(5) ――線④「保は期待した」とありますが、どんなことを期待したのですか。「～こと。」という形で、書いて答えなさい。

こと。

□(6) ――線⑤「戸が開けられて、入ってきたのは小柄な男の子だった」とありますが、これを見た保の気持ちを表すのにふさわしいことばを、本文中から十一字で書きぬいて答えなさい。

□(7) ――線⑥「だれだってそうなる」とありますが、「だれだってそうなる」理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「大・木・以・蔵」と、区切って名乗るすがたがこっけいだから。
イ 「大きいぞ」と聞こえる名前と小さな体とが不つり合いだから。
ウ 「以蔵」という名前が、そのすがたによく似合っているから。
エ 「大木以蔵」が「オオキイゾ」と聞こえる発音が変だから。

□

SAMPLE

3 随筆(1)

学習日 /

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

SAMPLE

〈畑正憲「ムツゴロウの動物交際術」より〉

（注）　鼻白んで＝気おくれした顔つきをして。

□(1)　――線①「そのような疑問」とは、どのような疑問ですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア　子犬には、どんなしつけをしておけばいいのだろうか。

イ　子犬に体ばつを加えたら、性格がいじけたりしないだろうか。

ウ　子犬にしつけをしないと、しょうらいどうなるのだろうか。

エ　子犬が、やんちゃぼうずで、元気がいいのはなぜだろうか。

□(2)　――線②「婦人は、ハッとなり、まるでわかいむすめみたいに顔を赤らめた」とありますが、このときの婦人の気持ちとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　望んでいた通りの答えが得られて、うれしく思う気持ち。

イ　自分がおろかな質問をしたことに気づき、はずかしがる気持ち。

ウ　自分が品のいい女性に見られるのを照れくさく感じる気持ち。

エ　質問にちゃんと答えてくれないことにはらを立てる気持ち。

□(3)　――線③「『半ばゾウになり切る』という心がまえ」とありますが、「半ばゾウになり切る」とは、どうすることの具体例として挙げられていますか。「こと」に続く形で、ここより前の本文中から十五字で書きぬいて答えなさい。

こと

□(4)　本文全体を三つの部分に分ける場合、二番目の部分は、どこからどこまでになりますか。その最初と最後の七字（。も字数に数えます）を書きぬいて答えなさい。

～

□(5)　本文の筆者が述べようとしていることとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　動物を手なずけるためには、時にはこづいてみたり、組みふせられたりしてやることも必要だ。

イ　動物を一方的にかわいがるばかりだと、人間が動物に見くびられるようなことになりかねない。

ウ　動物と接するときには、たがいに命あるものとして、相手の動物と対等に向き合おうとすることが大切だ。

エ　動物を育てるには、人間を育てるのと同じぐらい手間がかかるということを知っておかなければならない。

SAMPLE